

革新伊那中野二縣ヲ置キ、田野口ヲ龍岡ト改稱ス、既ニシテ皆改テ縣トシ、又廢シテ筑摩長野二縣ヲ更置ス。

〔先代舊事本紀十國造〕須羽國造

纏向日代朝行 御代建沼河命孫大臣命定賜國造

科野國造

瑞籬朝御世神 崇神八井耳命孫建五百建命定賜國造

〔續日本紀元八正〕養老五年六月辛丑割信濃國始置諏方國

〔續日本紀考證四〕案舊事紀有須羽國造古事記科野國之洲羽海所謂諏方湖也、今有諏方郡見和名抄

〔古事記上〕天鳥船神副建御雷神而遣略 爾欲取其建御名方神之手乞歸而取者、如取若葦搯批而投離者即逃去故追往而追到科野國之洲羽海將殺時建御名方神白恐莫殺我、除此地者不行

他處

〔續日本紀元八正〕養老五年八月癸巳以諏方飛驒隸美濃按察使

〔續日本紀元九正〕神龜元年三月庚申定諸流配遠近之程略 諏方伊豫爲中

〔續日本紀元十一武〕天平三年三月乙卯廢諏方國并信濃國

〔古事記傳十四〕洲羽海洲字舊印本延佳本共に州と作るはわろし、今は一本に従ひつ、洲羽は和名抄に信濃國諏方須波郡方字訪と是なり、續紀に養老五年六月辛丑割信濃國始置諏方國、天

平三年三月乙卯廢諏方國并信濃國とありか、れば古は一國にもすばかり廣き名なりけむ、名義未考得ざれども、嘗にいはいは、須夫麻理の意にもやあらむ、夫麻を切れば婆なるを、清音に

すばきことにて、上の風段云り、其由は、此次の詞に見ゆ、海は湖なり、凡て古は湖をもいはず、